

## 第2回核兵器の人的影響に関する会議 議長総括（仮訳）

2014年2月13日及び14日、146の国、国連、国際赤十字・赤新月社運動及び市民社会団体の代表団は、メキシコ・ナジャリット州で開催された第2回核兵器の人的影響に関する会議に参加し、公衆衛生、人道支援、経済、開発、環境問題、気候変動、食糧安全保障、危機管理といった分野を含む、偶発か故意かを問わないあらゆる核爆発の地球規模及び長期的な結末について、21世紀社会の視点及び懸念から議論を行った。

議長の見るところ、国と市民社会が幅広くかつ積極的に参加したことは、このことが世界中のすべての人々にとって最も重要な問題であるという認識の深化と並んで、核兵器の影響に対する地球規模の懸念を反映している。

ナジャリット会議は、広島と長崎への攻撃の被害者及び生存者の参加に対して、謝意を表明する。

ナジャリット会議は、核兵器の影響に関する詳細な議論を促進させるための事実に基づいたアプローチを提示することに成功した。（会議における）発表及び議論から、いくつかの重要な結論を引き出すことができる。

- ・核兵器爆発の影響は国境に縛られない。それ故我々全員が共有する深い懸念をもたらす問題である。
- ・（核兵器）爆発は、即死と破壊のみならず、社会的・経済的發展を妨げ、環境に害を与える。苦痛は広がり、貧しい人や弱者は最も深刻な影響を受ける。
- ・インフラの再建及び経済活動、貿易、通信、医療施設及び学校の再建には何十年もかかり、重大な社会的、政治的な損害をもたらす。
- ・放射線被曝は、人体のあらゆる臓器に短期的及び長期的な負の影響をもたらす、発がんリスクと将来に亘って遺伝的な病気（のリスク）を増大し得る。
- ・今日、核兵器使用のリスクは、拡散、サイバー攻撃やヒューマンエラーに対する核運用・統制ネットワークの脆弱性、非国家主体、特にテロリストグループによる核兵器の入手の可能性の結果として地球規模で増大している。

- ・ より多くの国々がより高いレベルの戦闘即応性の核兵器をより多く配備することで、偶発、過誤、未承認、または故意による核兵器使用の危険が著しく増大する。
- ・ 核兵器爆発の場合に、適切に対処し、または必要とされる短期的、長期的人道支援と保護を提供できる能力を持つ国や国際機関は存在しないのが事実である。さらに、例えそれを試みても、そのような能力を確立することは不可能であろう。

ナジャリット会議は第1回核兵器の人的影響に関する会議（2013年3月、オスロ）のフォローアップであり、これらの結論はオスロでの結論に基づいている。

核兵器庫を維持し、近代化するために充てられた莫大な資源と並び、核爆発の際の広範囲にわたる被害と負の影響は、これらの兵器の存在そのものを馬鹿げたものにし、防衛（政策）における議論に疑問を投げかけ、最終的に人間の尊厳に反するものになっている。

議長は、核兵器の人的影響に気づくことにより、核兵器に関する議論に関わる世界中の知的・情緒的支えが既に変化しつつあることを認識している。

国際的な核軍縮・不拡散体制の核となる要素としての包括的核実験禁止条約の発効、2015核兵器不拡散条約（NPT）運用検討会議における包括的な結果の達成といった行動は、核兵器の人的影響の議論と併せて、相互にそのプロセスを強固なものにしている。

核兵器の全廃については、いかなる努力も意味がある（no efforts are small）。この観点から、多くの代表団は、2013年に開かれた国連総会核軍縮に関するハイレベル会合による前向きな動きを強調した。

議長は、市民社会及び彼らのナジャリット会議への関与と提言に深く謝意を表し、すべての政府に対し、互いに有益な目的に向かって取り組むため、市民社会との間で、新しく、そして更新された多部門間のパートナーシップを構築することを求める。

議長は、第3回核兵器の人的影響に関する会議を主催するというオーストリアの提案を温かく歓迎する。この提案は、オスロとナジャリットのフォローアップとして、モメンタムを深め、これらの結論を定着させ、前に進めていくために、参加者からの大きな支持を得た。多くの代表団から発言があったように、本会議は、5核兵器国及びNPT非締約国に対し、オーストリアで開催される第3回会議への参加を改めて呼びかける。

その中で、我々はこれまで過去に、兵器は違法化された後に廃絶されてきたことを考慮する必要がある。我々はこれが核兵器のない世界を実現するための道であると信じている。

我々の考えでは、これはNPT及びジュネーブ諸条約共通第1条を含む国際法上の義務とも整合的である。

核兵器の人的影響に関する幅広く包括的な議論によって、法的拘束力のある措置を通じた新たな国際基準または規範に到達するための国と市民社会のコミットメントへとつなげるべきである。

ナジャリット会議は、この目標に資する外交プロセスを立ち上げる時が到来したというのが議長の意見である。我々は、このプロセスが、特定の期限、最適な議論の場の定義及び明確かつ中身のある枠組みを含むべきであり、これにより核兵器の人的影響が軍縮の努力における本質となると信じている。

今こそ行動の時である。広島と長崎への攻撃から70周年の節目が、我々の目的を達成するにふさわしい礎となる。ナジャリットは、もはや後戻りできない地点である。

(了)